

99年度「みどりこどもエコクラブ」実施案

| 回 | テーマ | 日時 | 場所 | 目的 | 備考・ |
|---|------------------|-----------------------------------|------------------------|--|-----------------|
| 1 | オリエンテーション | 4/25(日) 午前 安古市店 午後 五日市店 | 公民館 | 開会行事・アイスブレイクを目的としたゲームや歌、総合的環境学習 | |
| 2 | 川の学習 | 5/16(日)安古市店 5/23(日)五日市店 | 古川(安古市店) 八幡川(五日市店) | 水生生物と水質の関係を中心とした水辺の生態系についての学習 | |
| 3 | 環境にやさしい生活とは? | 6/6(日) 午前 安古市店 午後 五日市店 | 安古市店 五日市店 | スーパーの中で環境にやさしい商品を探す グリーンコンシューマーとしての買い物の仕方を学ぶ | |
| 4 | 食品トレイのリサイクルを考える | 7/26(月) | ザ・ビッグ 埋立地 福山エフピコ | スーパーのトレイ回収の実体験 広島市資源選別センター、埋立地、トレイリサイクル工場の見学 | 安古市店と五日市店の共同実施 |
| 5 | 自然学校 | 8/9(月)~8/10(火) 8/11(水)~8/12(木) | 豊平町共盛集会所 | 1泊2日の自然体験を中心としたプログラム(沢登り・ゴミの分別ゲーム、原始の火起こし、そば打ち体験、川遊び、エコクッキング他) | 安古市店と五日市店は入れ替わり |
| 6 | ビーチクリーンアップ in 宮島 | 9/23(水) | 宮島包が浦 | 海岸ゴミを調査して海の問題について考える、ネイチャーゲーム | 安古市店と五日市店の共同実施 |
| 7 | 消費者の環境意識を考える | 10/31(日) 午前 安古市店 午後 五日市店 | 安古市店 五日市店 | スーパーの買物客の袋持参率調査 スーパーのレジの横で袋持参率調査を行う | |
| 8 | 山の観察 | 11/23(祝) | 二葉山 | 樹木観察やネイチャーゲームを通じて、里山と私たちの関わりについて考える(自然に育てられる私たち) | 安古市店と五日市店の共同実施 |
| 9 | まとめ、環境への提言まとめ | 12/5(日) 午前 安古市店 午後 五日市店 | 安東公民館 八幡公民館 | これまで学習してきたことを振り返り、これからの私たちの生活のあり方や環境に対して自分たちのできることを考える | |

午前は10:00~ 午後は15:00~を予定 日時場所開始時間等変更の可能性があります。

私と地球号とエコクラブ

戸野直之

ほっと一息

1998年12月25日の第9回講座の最後に、シリブカガシのドングリを植種して、'98年度の“みどりこどもエコクラブ(以下エコクラブ)”の全プログラムを無事終了することができた。全員そろっての記念撮影の後、昼食を食べるため急ぎ帰る受講生の小学生を見送りながら、仲良くなった子どもたちとの別れを惜しむというよりも、「やっと終わったか」という安堵感を感じたのが正直なところであった。大きなため息をつきながら、あたりを見回すと、他のスタッフもやはり大きなため息をついていた。とここまで書くと、エコクラブの運営が大変で、全然楽しくなかったような誤解を与えかねないので、言っておく。確かに大変なことは大変だったが、エコクラブはとても楽しかったのである。このような思いは、エコクラブの講座が進むごとに自分の中で、あるいはスタッフの間においても広がり、深まっていったと確信している。

エコクラブに関わるまで



そもそも私とエコクラブ(小学生対象の環境教育講座)との関わりは、宇宙船地球号の会への入会動機にまでさかのぼらなければならない。当時、入会直前の私は、それまでの会社員時代にピリオドを打ち、子どもたちの教育に情熱を燃やし始めた時期であった。これまでの自分自身のライフスタイルを反省し、「このままでは今の社会や地球は持たないのではないか?」と漠然と不安に感じていた。「自分でも何か行動しなければ」と思いつつも、そのような行動力や勇気を持ち合わせていなかった。そんな時、機関誌地球号を通してこの会の存在を知り、竹本さんをはじめ、会員の方々の地道な努力や行動に、大い



に勇気づけられたことを記憶している。特に、環境問題に対しては、抗生物質のような劇的な特効薬はなく、地道に継続的に活動を続けていくことしかないのだ、ということに共感を覚えた。また、すぐに結果を求める対症療法ではなく、広く長い目で見通した上での、事実や真実に基づく判断や行動が求められることを痛感した。そう言った意味で、環境問題解決の手段として子どもを対象とした環境教育は、遠回りのようで実は近道で有効な手段ではないかと思ったのである。もちろん、それだけで世の中の環境問題がすべて解決できるとは思っていないが...

このような状況にあった私が、「高校生のための環境講座」のスタッフを募集していた宇宙船地球号の会へ入会を決めたのは、ごく自然な成り行きだったのである。「高校生のための...」とあるので、対象は当然高校生である。私個人としては、正直なところ小学生対象の講座をやってみたかったのであるが、講座の企画や運営などは全くの素人であり、そういったところの勉強も兼ねるという意味で、「高校生のための環境講座」のスタッフとしての経験は大変に有意義な活動であった。自分へのノウハウの蓄積から言っても、個人的には「小学生対象の環境講座の実施は、もう2～3年先かな?」と思っていた。

ところがその翌年、会として例年どおり「高校生のための環境講座」の企画を立てていた頃(5月)、思わぬところから「小中学生対象の環境教育講座をやりたいのだが」と打診があった。県内の大手スーパーである(株)みどりさんが、フィランソロピー(企業の社会貢献活動)の一環として「子どもエコクラブ」の立ち上げを企画され、広島市のひと・まちネットワークさん経由で、宇宙船地球号の会へ講座の企画・運営への協力を求めてこられたのである。当時、会としてもたくさんの行事を企画・実施していて、手一杯の感もあったのだが、竹本さん夫妻や、私と同様子どもの教育に情熱を燃やしている会員の久我さんの後押しで、(株)みどりさんの申し出を快諾。限られた時間やスタッフの中で、「みどり子どもエコクラブ」の企画立案 実施と相成ったのである。

実際の企画作業については、竹本さん夫妻におんぶにだっこで、自分としてはあまり力になれなかったような気もするが、ともかく、記念すべき「みどり子どもエコクラブ」第1回の講座を迎えたのである。

エコクラブが始まって

第1回の講座は、オリエンテーション。受講者の保護者にも参加してもらって、各回の講座でどのようなことを計画しているのか、などを説明した。また、アイスブレイクと言って、楽しいゲームを通して受講者同士の人間関係を作っていくことも行った。環境教育講座とは言っても、座学による知識の詰め込みによるのではなく、直接的な体験を第一に考えるということと、目の前の人間と仲良くやっていけない人間が(各個人の中にある環境問題)、一般の環境問題について考え、行動することはできないということ、スタッフの間で企画段階からの共通認識として持っていたからである。私も、おそろおそろ子どもたちや保護者の前でしゃべったのであるが、他のスタッフの助けもあり、つつがなく終了することができた。



エコクラブ全9回の講座の中でも最大の行事と言えるのが、第2回の林間学校である。実際、エコクラブの予算のほとんどを(8割?) 費やすことになった。豊平町の共盛(きょうせい)地区にある老人集会所で、1泊2日かけて自然学校のような行事を行った。子どもたちも、普段接することの少ない自然の中の遊びに夢中になり、全員が目を輝かせて楽しんでた。今時の子どもたちの中で常識となっているコンピューターゲームなしでも、かれらは本当に夢中になって遊んでいた。添加物のたっぷり入ったお菓子や、ペットボトル入りの甘〜いジュースなどを欲しがる子は1人もいなかった。昼間にたっぷり遊んだ後、さすがに夜は疲れたのか、みんな早々に就寝していた。そこには、少し前の時代の子どもたちと何ら変わらない子ども像があった。現在、社会問題となっている教育問題解決の糸口の1つが見えたような気がした。

そして、忘れてならないのが、私たちにも予測不可能であった大人たちの変貌ぶりである。当初から、(株)みどりさんからエコクラブの担当者が2名、各講座に参加することになっていたのだが、はっきり言って林間学校が始まるまでは、あまり乗り気ではなかった(本

人談)のである。ところが、林間学校での行事で「沢登り」や「そば打ち」を経験されたことで、エコクラブへの認識が変わったと言われた。急流の中を救命ロープを頼りに必死で歩いたり、そばをこねたり伸ばしたりしている担当者の方々の目の色やその後の行動変化を見れば、それは誰の目から見ても明らかであった。現代の子どもの直接経験(の驚きや苦しさ、楽しさなど)不足は、私も含めて、現代の大人にも当てはまる問題ではないかと感じた次第である。私たちスタッフとしても、このような活動が、子どもだけでなく大人をも変え得ることができるとうかつたことは、大きな収穫であり、今後の会の方向性や行事などに1つの方向性を与えられるのではないかと思っている。



さて、これ以後も講座は続くのであるが(全9回)、その様子を詳しく述べていたらとても長くなってしまいますので、これぐらいにしておく。受講者の子どもたちも(一部の保護者も)、毎回の講座を楽しみに参加してくれたようである。私たちスタッフも、ただ各回の講座を企画・開催・消化しただけでなく、その過程においての子どもたちとの交流が楽しかった、と言うのが正直なところであろう。現代っ子とはいえ、やはり子どもは子どもである。1人1人の子どもは、無邪気で純粹で、本当にかわいい。

今思うこと

短いながらも、エコクラブをはじめ、環境保全の市民活動に関わってきて感じることは、「こうありがたい、こうやりたい」と強く思い、行動し続けることの大切さと同時に、人と人との縁の大切さである。小学生の環境講座をやってみたかった自分自身にとって、まさにトントン拍子に事が進んでいったように思われるのだが、実はこのことのベースには、竹本さんをはじめ、宇宙船地球号の会に関わってきた多くの方々の地道な行動や実践が積み重ねられていることを忘れてはいけない。“ギブ・アンド・テイク”とはよく言ったもので、有益な情報の発信源に有益な情報は集まるのである。そう言った意味で、たくさんの情報の集まる宇宙船地球号の会には感謝してもしきれないほどだ。

また、会の活動を通して、実に多くの方々に会うことができている。年齢や性別、職業、社会的な地位などが異なる人とは普段接する機会も限られるのだが、市民活動に関わっていく過程では、努力すればいろいろな立場の方々と知り合いになり、情報交換することが可能となってくる。ともすれば、狭い範囲でかたまってしまうがちな考えや行動(独善化)が、より客観化され得るのだ。ただし、活動時間の確保が悩みの種であるが...

さて、今年度もエコクラブは実施される。現在は、事務局にて企画を練っている段階である。この原稿が機関誌に載せられ、みなさんに読んでいただけるようになった頃には、企画作業は一息ついていことだろう。今年度の活動も、昨年度の活動とそんなに違いはないのであるが、実施拠点が2ヶ所に増えたことと、新しいスタッフが加わってくれたことを紹介しておきたい。特に、新しいスタッフについては、これまでの「高校生のための環境講座」の受講修了者が数名も参加してくれていて、「高校生のための環境講座」のスタッフ経験者としては、とても嬉しく思っている。元々の受講者のレベルが高かったと言えばそれまでだが、自分としても「少しぐらいは貢献できたかな?」と勝手に思っている次第である。小さいことのようにだが、こうして自分たちの実践してきたことが、次の世代につながっていつている事実を目にすると、「あれは意味のないことではなかったのだな」と勇気づけられるのだ。

さあ、今年もまた、地球号に元気でかわいい子どもたちが集まってきます。私たちと一緒に(スタッフとして)、子どもたちと楽しく遊んで(勉強して)みませんか?

